

野菜の需給・価格動向レポート(平成24年10月1日版)

平成24年10月1日
野菜需給部

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格動向		9月の価格動向		生育及び価格の10月の見通し			
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関 東・近畿ブロック 旬別平均販売価 額	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額				
	下旬	上旬	中旬					
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	53	74.19	51	58	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：16,221t (103) 主産地：群馬 (56)、千葉 (18)、茨城 (8)、岩手 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 群馬産の生育は、順調で降雨の影響もあり大玉傾向。中旬までは潤沢な出荷の見込み。千葉産は、夏場の高温の影響で定植が遅れ、出荷開始が平年より遅れているものの、今後は徐々に出荷量が増え、平年並みの出荷となる見込み。 群馬産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		88.91	54	88.91	50	57	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,100t (100) 主産地：群馬 (50)、長野 (24)、茨城 (12)、愛知 (6) 	
	ねぎ (関東：白ねぎ 関西：青ねぎ) 	273.33	195	273.33	249	271	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：5,903t (100) 主産地：青森 (24)、山形 (13)、秋田 (13)、新潟 (11)、北海道 (9)、茨城 (8)、岩手 (5)、輸入 (4)、埼玉 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> 青森産、山形産及び秋田産は、適雨により順調な生育になっているものの、稲刈りの作業と重なることから上旬までは少なめの出荷となり、中旬以降増加する見込み。 少なめの出荷が見込まれることから、価格は、上旬まで平年を上回って推移する見込み。
		342	323	342	286	344	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：210t (127) 主産地：香川 (27)、大阪 (21)、高知 (14)、徳島 (13)、奈良 (8)、愛媛 (6) 	
	はくさい 	78.06	52	78.06	50	53	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：14,193t (110) 主産地：長野 (70)、茨城 (18)、北海道 (7) 	<ul style="list-style-type: none"> 長野産は、気温の低下により4玉中心から6玉中心の出荷となっているものの、順調な生育で、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、下旬から出荷開始となる見込み。 長野産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		88.72	50	88.72	50	52	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：5,200t (100) 主産地：長野 (96) 	
	ほうれんそう 	583.95	594	583.95	719	706	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,437t (105) 主産地：群馬 (36)、栃木 (18)、茨城 (15)、千葉 (10)、岩手 (9)、埼玉 (5) 	<ul style="list-style-type: none"> 群馬産は、気温の低下とともに出荷量が回復し、中旬にはピークを迎える見込み。栃木産は、ピークを過ぎ減少傾向であるものの、平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷量が回復すると見込まれるが、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		670.86	652	670.86	752	805	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：440t (84) 主産地：岐阜 (66)、福岡 (8)、北海道 (7)、和歌山 (6) 	
	レタス 	158.27	111	158.27	114	119	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：9,129t (105) 主産地：茨城 (57)、長野 (32)、栃木 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 長野産は、適雨もあり順調な生育になっている。今後は出荷の終盤を迎え、徐々に出荷量が減少する見込み。茨城産は、生育は当初の生育遅れをとり戻し、月後半から出荷量が増加する見込み。 潤沢な出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		160.6	109	160.6	114	125	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,550t (113) 主産地：長野 (64)、茨城 (25)、兵庫 (7) 	
	たまねぎ 	84.85	113	76.15	101	90	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：11,639t (110) 主産地：北海道 (88)、輸入 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、順調な出荷となり、前年を上回る出荷となっている。今後も平年並みの出荷の見込み。 順調な出荷が見込まれることから、平年を上回って推移している価格は、徐々に平年並みに近づく見込み。
		84.85	128	76.15	106	91	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：3,900t (116) 主産地：北海道 (56)、兵庫 (38) 	
果 菜	きゅうり 	210.69	196	210.69	166	148	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：6,175t (100) 主産地：埼玉 (31)、群馬 (21)、茨城 (13)、福島 (12)、栃木 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉産は、高温の影響でB級品が多かったが、気温の低下により改善し、今後は順調な出荷となる見込み。群馬産及び茨城産は、気温の低下に伴い、品質が改善し、正品率が上昇する見込み。 順調な出荷が見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		221.71	218	221.71	181	181	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,300t (101) 主産地：福島 (20)、北海道 (18)、宮崎 (18)、大阪 (13)、群馬 (10)、愛媛 (6) 	
	トマト 	229.51	276	229.51	260	391	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：5,984t (102) 主産地：千葉 (24)、茨城 (17)、青森 (11)、福島 (9)、愛知 (7)、群馬 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、最近の曇天の影響で出荷量の伸び悩みがみられるが、しばらくはダラダラとした出荷が続く見込み。茨城産は、生育が回復し、順調な出荷となる見込み。青森産は、出荷の終盤を迎え減少傾向であるものの、平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		271.33	320	271.33	291	417	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,200t (112) 主産地：北海道 (25)、岐阜 (18)、熊本 (16)、石川 (7)、愛知 (7)、岡山 (6) 	
	なす 	209.55	155	209.55	176	200	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：3,534t (105) 主産地：高知 (29)、栃木 (22)、茨城 (15)、群馬 (15)、福岡 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、順調な生育で、平年より多めの出荷の見込み。栃木産は、高温と少雨の影響により花落ちが見られ、少なめの出荷となっていたものの、生育が回復し、今後は順調な出荷の見込み。 高知産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		221.72	160	221.72	191	213	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：680t (105) 主産地：高知 (23)、徳島 (18)、山梨 (11)、京都 (8)、熊本 (8)、大阪 (7)、 	
	ピーマン 	263.58	163	263.58	173	165	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,840t (102) 主産地：茨城 (72)、岩手 (12) 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、秋作も始まり、生育が順調で、潤沢な出荷の見込み。岩手産は、出荷の終盤を迎え、徐々に出荷量が減少するものの、平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		282.16	208	282.16	240	225	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：320t (91) 主産地：宮崎 (17)、高知 (14)、兵庫 (13)、青森 (11)、愛媛 (9)、福島 (8)、大分 (7)、鹿児島 (6) 	
根 菜	だいこん 	94.6	75	94.6	81	85	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：13,137t (98) 主産地：北海道 (39)、青森 (29)、千葉 (21)、岩手 (5) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産及び青森産は、生育が順調で病虫害も少なく、適雨により生育が進み、平年を上回る出荷となっているが、今後は月末の終盤を迎え、徐々に出荷量が減少し、平年並みの出荷となる見込み。 出荷量の減少が見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		100.39	78	100.39	78	86	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,500t (99) 主産地：北海道 (32)、石川 (31)、青森 (10)、新潟 (9) 	
	にんじん 	123.08	86	123.08	95	113	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：8,073t (100) 主産地：北海道 (89)、輸入 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、ピークを迎えており、順調な生育で、潤沢な出荷となる見込み。 潤沢な出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		123.11	90	123.11	98	118	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：2,700t (111) 主産地：北海道 (98) 	

種類	8月の価格動向	9月の価格動向			生育及び価格の10月の見通し			
		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額				
		下旬	上旬	中旬				
いも	さといも	242.66	219	242.66	230	196	・入荷見込量：1,436t (103) ・主産地：埼玉 (38)、千葉 (28)、輸入 (7)、栃木 (5)	・埼玉産及び千葉産は、順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		220.11	202	220.11	222	200	・入荷見込量：288t (-) ・主産地：宮崎 (39)、愛媛 (35)、千葉 (6)、福井 (6)、輸入 (6)、大阪 (4)、	
	ばれいしょ	101.61	94	101.61	84	79	・入荷見込量：7,911t (110) ・主産地：北海道 (99)	・北海道産は、順調な生育で玉の肥大も良く、潤沢な出荷の見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		101.61	94	101.61	79	75	・入荷見込量：4,100t (106) ・主産地：北海道 (99)	

1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。

2) 別別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景あるいは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。

3) 単位は円/㎏、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。() 内は前年対比。

5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。() 内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。

6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、8月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,215gで前年比96%、購入金額は、1,603円で同93%となり、購入数量は前年をやや下回り、購入金額はかなり下回った。

また、小売物価統計によると、9月のキャベツの小売価格は、106円で過去5か年平均比68%、レタスは、328円で同58%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を大幅に下回った。

生鮮野菜の購入数量及び金額 (1人当たりの購入数量と金額)

年	過去5か年平均		平成23年		平成24年			
	購入数量 (g)	金額 (円)	購入数量 (g)	金額 (円)	前年比	金額 (円)	前年比	
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97	1,634	104
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105	1,735	107
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94	1,851	104
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	96	1,904	106
5月	5,109	1,894	5,171	1,820	4,945	96	1,948	107
6月	5,043	1,872	4,904	1,857	5,103	104	1,875	101
7月	4,441	1,696	4,362	1,759	4,319	99	1,651	94
8月	4,348	1,719	4,392	1,717	4,215	96	1,603	93
9月	4,831	1,804	4,598	1,803	0	0	0	0
10月	5,262	1,862	5,037	1,884	0	0	0	0
11月	5,016	1,636	5,091	1,613	0	0	0	0
12月	5,145	1,834	4,998	1,792	0	0	0	0

資料: 総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

	キャベツ		レタス			
	過去5か年平均	平成24年	5か年比 (%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比 (%)
1月	166	230	138	547	690	126
2月	177	247	140	508	691	136
3月	188	238	126	461	692	150
4月	238	262	110	462	513	111
5月	172	196	114	380	409	108
6月	144	127	88	350	305	87
7月	160	119	75	324	292	90
8月	156	111	71	463	296	64
9月	155	106	68	562	328	58
10月	161	0	0	505	0	0
11月	162	0	0	371	0	0
12月	153	0	0	453	0	0

1) 過去5か年は平成19～23年の平均。

2) 平成24年9月の値は、9月中旬の速報値。

資料: 総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

8月の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は前年比104%の6万トン、加工野菜は同100%の16万トン、野菜全体では同101%の22万トン、うち中国からの輸入は同96%の11万となった。生鮮野菜は前年をやや上回り、加工野菜及び野菜全体は前年並みであった。

野菜の輸入数量の推移

(単位: トン、%)

区分	平成22年		平成23年		平成24年1～8月	平成24年8月
	前年比	前年比	前年比	前年比		
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	691,892	111
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	1,265,688	106
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	1,957,580	108
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	979,019	107
中国産シェア	51		52		50	52

資料: ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

(単位: トン、%)

品目	輸入先	平成23年8月(A)	平成24年8月(B)	(B)/(A)
		合計	中国	110
たまねぎ	合計	22,261	27,156	122
	中国	21,976	24,277	110
にんじん	合計	6,930	4,696	68
	中国	6,069	4,306	71
ねぎ	合計	5,179	4,085	79
	中国	5,177	4,082	79

資料: 農林水産省「植物防疫統計」。平成24年8月は、速報値である。

4 トピック 一 野菜の作付面積と出荷量の動向 (平成19年と23年の比較) 一

8月30日に農林水産省が公表した資料によると、平成23年産の野菜(40品目)の作付面積は49万ha、出荷量は1,130万トンとなった。平成19年産と比較すると、作付面積で97%、出荷量で92%と、いずれも減少している。

品目別に見ると、ブロッコリー、にんにく、こまつな、ちんげんさい、しょうが等で作付面積が増加している。これは、①ブロッコリー、こまつな及びちんげんさいは、緑黄色野菜として注目され、また、軽量野菜で生産に取り組みやすいこと②にんにく及びしょうがは、香辛野菜として人気が高いことによるものと考えられる。

なお、しょうがは、栽培技術の向上により単収も大幅に増加しており、出荷量が大きく伸びている。

一方、指定野菜は、多くの品目において、作付面積が減少している。これは、例えば、きゅうり、なす及びだいこんの漬物需要の減少に見られるように、食生活の変化による需要の減少が大きく影響していると考えられる。また、トマトは、近年人気のイタリア料理の重要な素材となっているなど需要が堅調な品目であるが、トマト加工品への対応が輸入のトマトピューレ等でなされており、夏秋トマトをはじめ作付面積が減少し、出荷量も減少している。

そのような指定野菜の中で、キャベツとねぎは、作付面積が増加している。キャベツは、和洋中の料理にあり、用途が広く、業務用需要も強いこと、ねぎは、葉物から料理素材まで幅広い一定の需要があり、また、機械化が進み、栽培面積の拡大が進みやすい状況となっていることによるものと考えられる。

食生活の変化を視野にいたれた野菜生産や国産野菜のさらなる消費拡大が求められる。

野菜の作付面積と出荷量の増減率(平成19年と23年の比較)